

5-2-6 健康科学部の特色とねらい

(1) 健康科学部の教育・学習の理念

2017年度に健康科学部を開設した理由は、以下の3点です。

- ① 「健康」に関する問題は乳幼児から高齢者までの日本人全体に関わる喫緊の課題であること。
- ② 「健康」に関するエビデンスに基づいた科学的知識の探究と蓄積が必要であること。
- ③ 「健康」に関する問題の発見と解決には、「こころ」と「からだ」についての学際的アプローチが必要であること。

「健康」という言葉は「健体康心」に由来すると言われていています。すなわち、人間（ヒト）が幸福であるためには、健やかな「からだ」と康らか（安らか）な「こころ」を持つことが最低限の必要条件です。さらに、人間は社会的な動物であることから、「こころ」と「からだ」の相互作用によって生み出される行動が社会的に適応的かつ安定的であることが望まれます。「こころ」と「からだ」の安定性を維持するためには、単に健康障がいを防止するだけではなく、さらに一步進んで、乳幼児期、児童期、青年期、成人期、壮年期、老年期の各ライフステージにおいて、継続的かつ計画的に「こころ」と「からだ」の両面にわたる積極的な健康の保持・増進とそれを支える環境整備をおこなう必要があります。

「健康」に関する問題は個人の幸福の追求と直結しているがゆえに、時として人々を科学的エビデンスに乏しい行動に走らせてしまいます。このような人々の行動を変容させ、真の意味での健康に導くためには、「こころ」の観点からカウンセリングを行う心理士（公認心理師、臨床心理士）も「からだ」の問題を発見する眼を持つ必要があり、同様に、「からだ」の観点から栄養指導を行う管理栄養士も「こころ」の問題を発見する眼を持つ必要があります。さらに、心理士や管理栄養士などは、その職場において、医師、理学療法士、教諭等の他の専門家と協働しながら人々の健康を支援する必要があります。

そこで健康科学部では、健康について科学的に探究し、それによって培った知識と、「こころ」と「からだ」の両面に対する鋭い観察眼とによって、人々を科学的エビデンスに基づく適応的で安定的な行動に導き、他の専門家と協働して地域の人々の健康の回復・保持・増進に寄与する人材を養成するための教育を行います。

(2) 健康科学部の学習内容

健康に関する問題は、今や日本に限らず、先進国をはじめとする世界中の問題と言っても過言ではありません。したがって、第一には健康科学に関する世界中の知見を知識・技能として修得する必要があります。その上で、その知識・技能を心理士あるいは管理栄養士として実践力を伴って社会に還元できるようにするために、主体性を持って問題を発見し、多様な価値観を持つ人々と共感的な人間関係を創造しながら、協働的に問題の解決に当たることのできる能力を身につける必要があります。

健康科学部では、心理学科が主に「こころ」の側面から、健康栄養学科が主に「からだ」の側面から、それぞれ上記の知識・技能・能力を涵養します。さらには、いわゆる文系学科である心理学科と、理系学科である健康栄養学科とから構成されていることを活かして、両学科の学生が健康科学に関する共通の科目群を履修する文理融合型の教育を行うことによって、それぞれの学科・学問分野に閉じた教

育ではなく、学際的な教育を行います。

心理学科では、公認心理師（国家資格）や臨床心理士（公益財団法人臨床心理士資格認定協会、以下臨床心理士資格認定協会と略記）の資格取得に向けた教育や心理系専門職公務員を目指す教育、あるいは心理調査・心理データ分析を行って、心理学の知見をビジネスや日常生活など社会のさまざまな場面の問題把握と解決に役立てられる人材を養成するための教育を行います。

健康栄養学科では、医療機関、福祉・介護施設、行政機関等で活躍する管理栄養士や栄養士（いずれも国家資格）を養成する教育や、食品関連企業などで食品衛生管理者や食品衛生監視員として活躍できる人材を養成するための教育を行います。

なお、卒業要件外の教職科目の履修によって、健康栄養学科では栄養教諭一種免許状を取得できます。

1. 心理学科の特色とねらい

(1) 教育目標

●心理学とは？

日本学術会議心理学・教育学委員会心理学分野の参照基準検討分科会「大学教育の分野別質保証の教育課程編成上の参照基準（心理学分野）」（2014年9月30日）によれば、心理学は『人文学的な「心とは何か」という疑問から出発し、心理学独自の方法論のみならず、他の自然科学諸領域、とりわけ、医学、生物学、脳科学で開発されたさまざまな手法をも駆使して、実証的、検証可能な形で心の実態に迫る』学問領域です。また、『こうした基礎的な学問領域であると同時に、基本的な問いへの探求から生じてきたさまざまな知見を、教育、福祉、臨床、産業、情報技術等の多様な場面へ適用することをも目指す実践的な学問』としての側面を持っています。したがって、心理学という学問分野の特徴は、純粋科学的な知見と現実社会における実践から得られた知見との双方向の密接な関係性を持ちながら、純粋科学的観点からの課題と現代社会に生きる人々が抱える実践的な課題とを探究・解決することにあると言えます。

●心理学を取り巻く状況

「こころ」の問題に対応できる実践的能力を有する人材養成は国家レベルでの重要かつ喫緊の課題であり、2015年に公認心理師法が成立し、国家資格として「公認心理師」が制定されました。従来「こころ」の問題に対しては、民間資格である臨床心理士がこれにあたってきました。臨床心理士は、その養成に当たって臨床心理士資格認定協会が指定する臨床心理士指定大学院の臨床心理学系専攻修士課程又は専門職学位課程を修了することが条件となっています。すなわち、大学院の修士課程等のみによって専門家養成のための教育を担保してきました。しかしながら公認心理師法では、大学の学部教育の段階から将来的な「こころ」の専門家となるべく対応が求められています。

一方、昨今における企業等の経済活動を眺めると、消費者の好みの多様化によって一人ひとりのニーズに沿った商品開発が必要となってきています。また、SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）等を經由した情報の氾濫によって、風評被害のような負の側面も看過できないものとなっています。これらを反映して、消費者やユーザーの意識調査を実施し、得られたビッグ・データを分析できる人材を求める動きが次第に広がってきています。このような時代の要請に応えるために、公益社団法人日本心理学会（以下、日本心理学会と略記）は、学会認定資格として、従来の「認定心理士」に加えて「認定心理士（心理調査）」を創設しました。これは、実験、アンケート、面接（インタビュー）、観察（フィー

ルドワーク) についての専門的知識を身に着けたことを保証する資格です。

● “修大心理” のこれまで

広島修道大学の心理学教育は、中国・四国・九州地区の私立大学としては最も古い1973年に、人文学部人間関係学科心理学専攻を設置したことに始まります。以来、「個としての人間」の精神活動に関する科学的探究の意味およびその技術に関する基礎心理学教育を一貫して行ってきました。具体的には、心理学の専門領域と関連領域に関する高度な専門知識を有するとともに、人間に関する諸問題に対して心理学的な発想と分析及び解決ができる人材の養成を目的として、学習、感情・動機づけ、知覚、認知、生理、発達等の基礎的学問領域と、社会行動、教育、人格、臨床、健康等の応用的学問領域とのバランスを取りながら教育を行なってきました。これによる学修を基盤として、歴代の学生のみなさんは実践的な活動としてさまざまな地域援助活動（たとえば、広島市児童相談所「一時保護所夜間指導員」「子ども虐待電話相談員」、広島市教育委員会「ふれあいひろば」「ソーシャル・スキル・トレーニング講座」「広島市青少年メンター」支援ボランティア、児童養護施設「似島学園」や「広島修道院」の臨時職員等）にも主体的に取り組んできました。これらの活動を基盤として、多数の卒業生が人々の「こころ」の問題に向き合う心理系公務員や臨床心理士として活躍しています。

● “修大心理” のこれから

先述のような現代社会の要請を踏まえて、従来の修大心理が培ってきた心理学の基礎的領域の教育・教員組織を土台として、これらを拡充することによって、精神と行動を科学的に測定・検査・分析するための実践的能力を身につけ、人々の精神的健康の回復・保持・増進を支援できる人材や、身の周りの製品や組織の設計・改善を「個としての人間」の観点から提言できる人材を育成する目的で、2017年に健康科学部心理学科を設置しました。

心理学科では、既存の臨床心理士資格を目指すための学生に対して臨床心理学をはじめとした応用心理学関連科目を増設するとともに、公認心理師の資格取得を視野に入れて学部教育を行います。また、「認定心理士」に加えて「認定心理士（心理調査）」の資格を目指す学生のために、心理調査に関連する科目を充実させています。

● 教育目標

心理学科では、ディプロマ・ポリシーに掲げている3つの能力・態度を修得させることを教育上の目的としています。

それを解説すると次のようになります。

- ① 科学（science）である心理学がこれまでに蓄積してきた知見・方法・理論の歴史的展開と、現時点で未だ解決できていない問題点を自ら調べ、かつ考えることによって、オリジナリティのある卒業論文として、人間の「こころ」の働きについて客観的かつ論理的に記述できる能力を修めさせます。
- ② 人間の「こころ」と行動を科学的な方法を用いて数量化し、また統計的に分析する能力と、それらを通じて得られた結果に関して教員や他の学生と適切な議論を交わしながら、「健康」問題に代表される日常の身近な課題に対して適切な探究方法を考案し、自律的に解決できる能力を身につかせます。

- ③ 人間の「こころ」と行動に関する基礎知識を元に、自信を持って、また他者からも信頼されながら、他者の言葉に耳を傾け、他者の行動に関心を持って共感的な人間関係を構築することによって、協働して問題の解決に当たることができる態度を育てます。

(2) 特色

●コース制

心理学科には、以下の2つのコースが設けられています。3年次より、みなさんの希望と学業成績とを勘案していずれか一つに配属するため、1年次からキャリア・デザインを考え、自分がどのコースに進むべきか検討するようにしてください。基本的に卒業まで同一コースで履修することを前提にして、希望するコースを選択してください。

① 心理臨床コース

「こころ」の健康を心理学の分野において中心的に扱う臨床心理学とその関連領域について教育を行い、公認心理師養成大学院および臨床心理士指定校大学院への進学者並びに心理系専門職公務員を養成します。

② 心理調査・科学コース

「こころ」の健康を研究する上での基礎となる人間の行動全般およびその背後にある社会・組織について心理学の観点から教育を行い、心理学の知見や心理データの分析をビジネスや日常生活など、社会のさまざまな場面の問題把握と解決に役立てられる人材を養成します。本コースでは、心理調査・心理データ分析を行うことができる「認定心理士（心理調査）」の養成も行います。

●学外活動の支援

心理学科では学外での自主的な活動を促す活動も積極的に支援しています。学外での積極的な活動を促すプログラムとして、全学共通の海外セミナーと、心理学科独自の科目である「地域援助実践体験」（2年次通年の選択科目、2単位）の2種類を準備しています。これらは、心理学科の教育上の目的の一つである、自他共に信頼し、他者の言葉に耳を傾け、他者の行動に関心を持って共感的な人間関係を構築する能力を涵養する科目の一つとして位置付けられ、また座学から実践への移行の節目にあたる科目として位置付けられます。

それぞれの科目は、きっとみなさんのキャリアの糧になることでしょう。

2. 健康栄養学科の特色とねらい

(1) 教育目標

現在の日本では、年々高齢者の割合が上昇しています。また中高年期から見受けられる生活習慣病は慢性疾患の原因でもあり、食習慣や生活習慣がその発症・進行と関係することから命名されたものです。その治療には継続的な食事療法などを必要とします。治療をおろそかにし生活習慣病が進行した場合、状況によっては介護が必要となる危険性があります。このように多くの生活習慣病は、私たちの日頃の食生活によって起こる栄養摂取の良し悪しとの関連があると近年注目をされています。また平均寿命80歳を超える現代、高齢者が地域で、社会でいかに生き生きと生活していくかということ（健康寿命の延伸）が注目されています。生活の質（QOL：Quality of Life）を高めることが“人の健康づくり（健康増進）”の上で重要とされています。そこでは特別なことをするわけではなく、日頃からの食事や運動、

休養によって健康・栄養状態の改善を図ることが不可欠となります。そのためには、一人ひとりが健康状態を維持・増進するために必要な食生活を実現することを支える人材が必要となります。それが栄養士・管理栄養士です。

現在私たちの生活する社会では、若年者から高齢者まですべての人々を対象とした保健指導など健康教育のネットワークの構築（一次予防）、疾患を抱えている人々への適切な治療機会を提供できる地域連携医療システムの構築（二次予防）、そして多職種連携によって介護等を必要とする高齢者の生活を支えるための地域包括ケアシステム（栄養ケア・マネジメントを含み、住まい・医療・介護・予防・生活支援を一体的に提供するシステム）の構築（三次予防）が必要とされています。そのような社会の中で栄養士・管理栄養士の果たす役割として、各世代における栄養状態の改善からの“健康寿命の延伸”が挙げられます。妊娠・出産期における良好な母子栄養状態の維持、成長期・思春期の発育発達を支える健全な栄養状態の維持、成人期における過不足のない摂取バランスの良い栄養状態の維持、高齢期における低栄養を予防する栄養状態の維持、加えて病期における適切かつ治癒を促す栄養状態の確保をすることが管理栄養士の役目として求められています。

健康栄養学科では、乳幼児から高齢者までの各世代および健康な人や傷病者の「栄養と健康」に関する専門知識と技能を学びます。それらを基礎から応用まで、臨地実習や各種実験実習の実践作業を通じて段階的・体系的に学修します。以上のことから本学科では、地域の人々の健康維持・増進に貢献することのできる管理栄養士の養成を目指し、次の3つの能力・態度の修得を目標としています。

- ① 栄養学を核とした保健・医療・福祉・食品・心理に関する関連領域において、管理栄養士として必要な「からだ」の健康と栄養に関する高度な専門知識と技能を有し、実践的な場において客観的かつ論理的な思考に基づき力を発揮できる。
- ② 「からだ」の健康と栄養の専門家として、食生活に関する自己管理能力を持ちつつ望ましい食習慣を形成すると共に、他者の行動に関心を持って人間関係を構築し、協働して問題解決に当たることができる。
- ③ 「からだ」の健康に関する課題を認識し、それらを解決できる策を自律的に思考し、地域の人々の健康の維持・増進・回復に貢献できる。

(2) カリキュラム（主専攻科目）の構成

健康栄養学科の主専攻カリキュラムは、その教育目標の大項目が管理栄養士の養成であることから、「管理栄養士学校指定規則 別表第一（第二条第一号関係）」及び「管理栄養士学校指定規則の一部を改正する省令の施行について（一三文科高四〇五・健発九三八） 参考表」に従った教育内容及び単位数を基本としたうえで、《健康科学部総合科目》、《専門基礎分野》、《専門分野》、《専門発展分野》及び《ゼミナール》に分け、ステップバイステップの積み上げ式に授業科目を配置しています。